

ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ報告シンポを開催
女性研究者活躍促進に関する国際調査(九大)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)報告シンポジウム「女性活躍指標に基づく女性研究者活躍促進に関する国際調査」が、このほど九州大学椎木講堂コンサートホールでオンラインとの併用により開催された。このシンポジウムは、令和

3年度に九大が代表機関として採択され、東京工業大を共同実施機関として進めてきた女性研究者の活躍促進に関する国際調査の報告を行うもの。同じく九大が実施する先端型事業「ダイバーシティ・スーパードローム」教員育成研修(SENTAN-Q)の中間報告を兼ねて実施した。

シンポジウムでは開会にあたり、調査分析事業の実施機関である九大の石橋総長と東工大の益一哉学長が挨拶。来賓として文部科学省人材政策推進室の岡貴子室長、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラムの山村康子主管から、女性研究者活躍促進の必要性と、調査分析事業と先端型事業への期待のメッセージが寄せられた。

シンポジウムのメインとなる調査分析事業は、女性研究者の論文業績から算出した部局別定量解析データをもとに、世界各国のトップ大学(総合大学と理工系大学)と情報交換を行うことで、各部局の抱える問題を明らかにし、解決策を見出すことを目的としている。

第一部では、調査対象機関から参加したカリフォルニア大サンディエゴ校のサンドラ・アン・ブラウン元副学長、アーヘン工大のウルリケ・ブランツイコール・オポチュニティ・オフィサーから女性研究者の現状と同事業への期待のメッセージが述べられ、続いて九大の玉田薫副学長と東工大の野村淳子教授が調査分析事業の実施報告を行った。

第二部では、先端型事業(SENTAN-Q)中間報告として、はじめに玉田副学長が事業の概要を説明。続いて、研修生選出の審査委員を務めるマチ・デルワース元OIST副学長とダイバーシティ・エクイティ&



挨拶する石橋総長

ンクルー
ジョン研
修の講師
でイリノ
イ大学ア
ーバナ・
シヤンペ
ーン校の



活発な議論が行われた総合討論

シヨーン・ガリック副学長から、メッセージを寄せられた。さらに、研修生3名が、このプログラムで得られた経験や成果、今後の目標などについて報告した。

第三部では、玉田副学長と野村教授が司会を務め、石橋総長、益学長、ブラウン元副学長、ブランツオフィサーをパネリストとして、「すべての構成員が真に活躍できる大学環境を実現するには」をテーマとした総合討論を行った。最後に、東工大の佐藤勲総括理事・副学長から閉会挨拶で、シンポジウムを締めくくった。

①ダイバーシティ(多様性)、②エクイティ(公平性)、③インクルージョン(包括性)の頭文字からなる略称である「DEI(ディ・イー・アイ)」。シンポジウムでは、各大学が取り組んでいるDEI推進に対する考えや施策を知ることができた。今後、各大学の風土・環境に合った好事例が取り入れられ、個々の意識が変わっていくことで、さらなるDEI促進が期待される。